

### 地区研修委員会副委員長 加藤 盛久 (茅ヶ崎湘南 RC)

皆さんこんにちは、地区研修委員会の加藤でございます。三木先生のご紹介をさせていただきます。

三木先生は1981年姫路ロータリークラブに入会いたしました。その後、2007～2008年度にRI第2680地区のガバナーを経験されました。

パンフレットにもありますように2013～2014年度RI第2730地区の地区大会会長代理もお勤めになられております。

2015年にはGETSの研修リーダー、また先ほど大谷ガバナーの挨拶にありましたように、2016年ソウル国際大会のSAAもお勤めになられております。2018年に神戸で開催されますロータリー研究会を主催されます。

私どもの地区の小佐野PGとは同期ガバナーでもございます。先般先生といろいろなお話をさせていただきました。今日は非常に興味あるお話をお聞きして勉強できればと思っております。

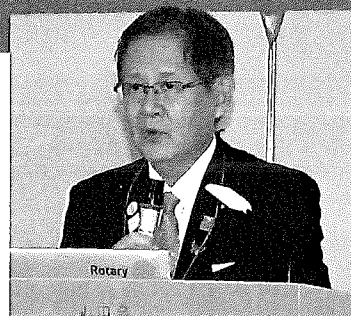
テーマは「これからのロータリーを考える」ー規定審議会より見えるものーと題してご講演をいただきます。

それでは三木先生よろしくお願いたします。

### 講演者紹介

### 講演

### RI 理事エレクト 三木 明 (姫路 RC)



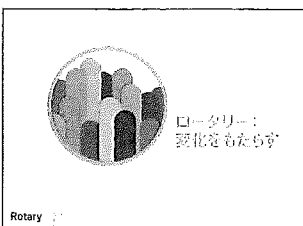
皆さんこんにちは、第2680地区兵庫県、世界遺産の姫路城があります姫路ロータリークラブの三木でございます。

先ほど大谷ガバナーが快く引き受けてくれたとおっしゃいましたが、無理矢理参りました。先ほど小沢元理事とお話しさせていただきました。斎藤理事も、石黒理事も大変いいお話を下さったということでした。どうぞ皆様お気軽にお聞きください。

私は関西人ですので、関西弁交じりの言葉です。お聞き苦しいかもしれませんが、関東の皆さん方は、関西弁が大嫌いと言いますが、そんなことをおっしゃらんとよう聞いてください。ぜひしばらくの間お付き合いいただきたいと思っております。

「これからのロータリーを考える」ー規定審議会から見えるものーというテーマをいただきました。もうご存知のように今年のRI会長のテーマは「ロータリー：変化をもたらす」ということでございます。

この二人ともよくご存じの方だと思います。大谷ガバナー率いる第2780地区、そしてイアン・ライズリー国際ロータリー会長の二人で



ございます。この二人が日本の、ご当地の、そして世界のロータリーをリードされているということでもあります。

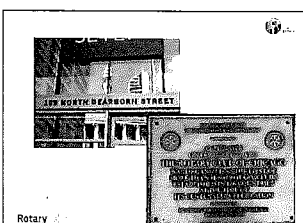
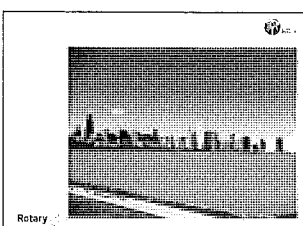
2016年すでに1年半近く前になりますが、規定審議会が開かれました。3年に一度シカゴの地で開かれます。世界中からこのシカゴの町にやっ来てまいります。

これは代表議員がツアーを組んで日本全国から34地区入りますが、ホテルのチェックインの時間待ちに空港からバスに乗せられて、時間稼ごのために、ミシガンの反対側から、シカゴの町を眺めたところでもあります。

この写真は絵葉書でございます。私が撮った写真です。中々いい写真ですね。(笑)

そんな時間つぶしをしまして、途中にはロータリーが発祥しましたノースディアポー街のところに右下にありますような名盤が埋め込まれてあります。

これは2005年のロータリー100周年記念にシカゴロータリーが作った名盤ですが、見落とすくらい小さな名盤であります。これは一度は見ておかなければいけないという観光会社の温かいご配慮で、見せて



いただきました。

この規定審議会というのは、ロータリーの立法機関でありますので、大変重要で、しかも、全ロータリークラブの会員が守らなければならないルールを決める場でございます。

2002～2003年度のガバナーでありますルイン・ピントンさんという議長さんがなかなか議長さんぶりを発揮されました。

2016年はこのピントンさんが議長でしたが、2013年の時はジョン・ジャームさんが議長でした。お二方とも素晴らしい議長ぶりを発揮されました。

こんな風に世界中の530数地区の代表議員が集まりまして、関係者を入れると700名を超える大きな会です。全員参加でこのように集中力をもって、会議をいたします。

公式言語に翻訳されますので、皆さんヘッドホーンをつけて一生懸命聞いて、そして議論し、またそれを数値としてあらわす、YESかNOか、これは世界中の人が決める民主的な会議であります。

よく国際ロータリーは身勝手なことをするとか、上から目線で物を言うとかということが言われますが、決してそうではありません。民主的に世界中の代表議員が投票して決めるわけですから、国際ロータリーが、どうだ、こうだということはありません。

最近三木はRI寄りの発言が増えたという風に言われますが、決してそうではありません。客観的な事実でありますので、ご理解いただきたいと思っております。

### 国際ロータリーの定款

国際ロータリーの定款の第10条に規定審議会というところがあります。

第1節-目的。規定審議会がRIの立法機関を成すものとする。これが国際ロータリーの定款に明記されています。

### 2016年規定審議会

もう皆さん方も内容をご存知と思いますが、クラブ運営に大幅な柔軟性が認められました。これが2016年の規定審議会の最大トピックスであります。

2016年4月、世界中の当時534地区の代表議員がシカゴに集まり、ロータリーの方針を見直しました。

クラブ運営に大幅な柔軟性を認める決定をしました。これらの決定には、例会の頻度、場所、方法、および会員種類に関する変更が含まれています。

### 2016年規定審議会の意義

これはどういうものかという、クラブ運営に大幅な柔軟性を認めるという新しいルールが導入されました。そしてロータリーの伝統的な基本理念や職業分類制度は不変で、変わりませんよということも確認されました。

柔軟性は、何でもあり、何でもOKではなくて、ロータリーの伝統的な基本理念は変わっておりません。このことを再確認した規定審議会でもありました。

なぜこういった変更が必要なのでしょう？

このことを考える中で、一部の国や地域でロータリーが急速に成長しているところもあります。一方で、日本や、アメリカのように会員数の減少や会員の平均年齢の高齢化などの問題に直面している国や地域もあります。

国際ロータリーではこれまで15年間、クラブの会員資格、職業分類、クラブ運営に革新性を取り入れようという試験的プログラムを実施してきました。

試験結果や会員からの報告を見ますと、例会方法、会員資格、クラブへの参加方法などについてクラブが決定できる柔軟性が多ければ多いほど、クラブに活気が生まれ、成長する傾向にあることが分かりました。

この2016年の規定審議会の決定により、すべてのロータリークラブは、例会や出席、クラブの構造、会員種類について、規定審議会が承認した新しいオプションを取り入れてクラブ細則を修正することが可能となりました。

国際ロータリー定款、国際ロータリー細則、標準ロータリークラブ定款に触れない限りはクラブで自由に細則をお作り下さいということでもあります。

ただ、変えてもいいよということではありますが、変更しないで、今まで通りのルールを守り続けていくんだ、というクラブはもちろん皆さん方のクラブの中で今までと同じような方法をとっていただければいいわけでもあります。

ですから今回の規定審議会の決定は、標準ロータリークラブ定款の規定に変更を加えるものではないということをお覚えておいていただければありがたいと思っております。

### 変更によるロータリーの変質は？

一連の変更により、ロータリーの評判やブランドが損なわれることはないかという心配が出ました。

2016年審議会で採択された制定案は、例会や会員種類に関するクラブの柔軟性を認める一方で、ロータリーの本質からの逸脱を認めるものではありません。そのことがしっかりと決められたわけでもあります。

ロータリアンは、事業や専門職および地域社会のリーダーです。会員の資格に変更はありません。ロータリーの基本的信条である「ロータリーの目的」にももちろん変更はありません。

そしてロータリーの本質を表した文があります。「リーダーのネットワークへ」「アイデアを広げる」「行動する」に変更は全くありません。ロータリーの本質は全く変わっていないということをお覚えていただけたらと思います。

「親睦」、「高潔性」、「多様性」、「奉仕」、「リーダーシップ」というロータリーの5つの価値観に変更はありません。

ロータリーの最も大切な特徴のひとつである「四つのテスト」にも変更はありません。

審議会による変更は、ロータリー会員の資格や資質を脅かすものではありません。むしろ、これらの変更は、ロータリーの第2世紀においてロータリークラブが今日的な意味を持ち続け、変化する環境に適応していく能力を与えるものです。

112年たった今、時代の流れとともに、変わっていくこと、変えるべきこと、そして変えざるべきこと、環境にも適応しなければいけない、そんなことを考えていかなければいけないと思います。

#### 変更された内容

例会の曜日と時間を自由に決定することができます。必要に応じて例会を変更または中止することもできます。

奉仕プロジェクトまたは社交行事を「例会」とみなすということもできます。

直接顔を合わせる例会、今皆様方の例会がそうで、フェイスとフェイスの例会もOKですし、オンラインで例会をしていただいても結構です。また、その両方を交互に行う、今回はみんなで例会場に集まってやりましょう、その次の例会はオンラインでやりましょう。それでもかまいません。

また、実際に皆さん方が顔を合わせて例会をなさっているところの例会をオンラインで流して、そこに参加することもできる。または出席要件を満たさなかった会員の終結、昔は4回連続してクラブを欠席したら自動的に会員身分は終結するという大変厳しいルールがございました。

例会が1週間に1回の時の話ですが、その時には4回休むと1か月間例会に顔を出さない、そのように友達のことも考えない、あるいは自分たちだけがいい思いをして、楽しんで気が向いたら例会に顔を出すという人は仲間じゃないから、自動的にあなたはおしまいですよということがありました。

これは仕事の都合があったり、様々な理由があるでしょうから、自動終結はやめましょう、そういうルールは少し厳しすぎるんじゃないか、というようなことで、緩めてきました。

#### 会員種類に関する柔軟性

国際ロータリーの細則、標準ロータリー定款の規定では、正会員と、名誉会員の2つの会員種類しかありません。クラブ細則を修正することにより、クラブは、地元ニーズに応じて新しい会員種類を追加できます。

準会員、法人会員、家族会員など名前を付けていただいて、会員種類を追加していただくこともできますが、皆さん方よくお考えいただきたいのです。

それではどんどんそのような人々を増やすのか？ただいたずらに会員種類を増やすだけでいいのか、皆さん方のクラブがそれでしっかりと成り立っていくのか？そんなこともお考えいただきたい。柔軟性というのは何でもありではありませんよということを先程お話をいたしました。

そういった方々も人頭分担金をお支払いいただくことで正会員となれるということですから、いろんな種類の会員を作られても正会員として登録されるためには人頭分担金を支払わなければならない。

そしてこの新しい種類の会員の皆様方にも人頭分担金を払わないと正会員にはなれませんよという、しっかりとしたご説明もしていただきたい。

#### 5か年の財務見直し

国際ロータリーでは5か年の財務見直しというものを作りました。2016年規定審議会において、2017-2018年度、2018-19年度、2019-20年度の各年度にRI人頭分担金を4ドルずつ増額する立法案が採択されました。

今まで皆さん方が毎年少しずつ上がっていたということをご存知でしょうか？半期50セントずつ上がっていました。今回からは半期2ドルずつ、年間4ドル上がるようになりました。会費の中から自動的に引かれていますので、皆さんあまりご存知ではないかと思われま。

4ドルあげるということは、多数決で決まったことであります。その中で、賛成意見、反対意見とたくさんありましたけれど、ヨーロッパのある女性議員が、4ドルぐらいだったら、朝犬の散歩に行つて、道に落ちていたお金を拾っただけでも4ドルくらい集まるので、全然OKだというような面白い発言がありました。

ある日本の代表議員は、毎年、毎年上げないで、年間80ドルにすればいいと、今は68ドルですがいろいろならんばうな意見もありますけれども、しかしこれは多数決で決まったことでありますから、皆さん方は知らない間にこのお金を支払っておられるということでもあります。

審議会におきましてはその財務的な課題とクラブへの支援改善の必要性を考慮し、未来に目を向けた決定を行ったと考えていただければいいと思います。10人中9人のロータリアンはより多くの支援業務を国際ロータリーに求めております。人頭分担金の増額なしにはクラブと地区への支援業務が減少することが規定審議会で明らかに示されました。

#### 年4ドルの増額が必要な理由

今世界的な金融市場で投資活動をやっていますが、極めて不安定であり、投資損益が生じています。

4ドルの増額により、既存の支援業務を維持するとともに、基本的な運営費と剰余金の目標額を上回る、若干の余剰収入がなければやっていけない、皆さん方の企業、事業所でもそうであります。いっぱい、いっぱいの経営ではなかなかうまくいかない、この資金をロータリーの未来のために投資できます。

ロータリーの5か年財務見直しによると、4ドル未満の増額の場合、次のことが予測されます。

1ドルの増額では1.8%でしか収入増とならない。世界のインフレ率2.5%を下回ってしまう。これにより、毎年の予算調整によって支援業務の大幅削減が必要となってしま。

今、世界中のロータリアンが、国際ロータリーに向け

て、いろんな支援を頼むよという中で、支援業務が減ってしまう。

剰余金のレベルが、2018年までに理事会設定目標額を下回る。これにより、ロータリーは、日々の運営費を賄うために大会準備金と投資の蓄えから資金を充てることが必要となってきて、経営的に苦しくなります。

2ドルの増額増加した場合は、剰余金のレベルが、2019年までに理事会設定目標額を下回る。

3ドルの増額では、剰余金のレベルが、2018年までに理事会設定目標額をごくわずかに上回るだけとなる。

4ドル増額による資金確保により、ロータリーは以下ことが開始できますといわれています。

今はこのような世界でありますから、ウェブサイトが大変有効で、重要で、そしてスピーディーに使われています。皆さんキーボードをたたくていろいろ検索されて、いろいろな情報を手に入れることができます。

そして、会員、役員、その他の情報を含め、クラブと地区の報告手続きを改善し、簡素化することができます。

地域別会員増強計画のための職員や、クラブと地区のためのツール(会員維持の現状評価など)を含め、会員増強の取り組みに投資することができます。

今、ロータリーアクターの常用性が言われています。ロータリーのオンラインツールをロータリーアクターも利用できるように改良し、未来のロータリアンとなる人々を育てようじゃないか、ということもこの増額によってできるということです。

ただ資金確保が必要ですが、ロータリーは経費の節減に努めています。そして経費の増加率の抑制にも努めております。

こういうことを言うから、お前は最近RI寄りだといわれますが、これは客観的な事実でありますので、ご理解いただきたいと思ひます。

様々なデータ処理とソフトウェア開発の基盤をインドに移すことで年に3万ドル近くの資金を節約。そして印刷、保管、郵便を外注することにより年に40万ドルの節約ができるようになりました。

新しいクラブ請求書の導入により年に25万ドルを節約ができます。また、出版物をデジタル化し、印刷を減らすことで年に10万ドルを節約できます。そんなことが実現可能なことになっております。

世界有数の会員制組織であるロータリーは、クラブや地区への慎重な投資によって安定した運営を行ってきました。

年4ドルの増額、これは週に8セントに満たない金額ではありますが、適切な資金管理により、ロータリーは、クラブと地区のニーズに応えつつ、入会の促進と新クラブの支援に必要なツールを提供できます。

今回の審議会決定により、ロータリーはこれからも、堅実な未来を築くために必要なリソースと能力を保持できます。

#### 会費増額承認の効果

会費増額が承認されたおかげで、各種のオンライン

ツールを大幅に改善し、クラブをより良くサポートするための数々の大きな変更が導入されることとなります。

新しくなったRotary.org(ロータリーウェブサイト)、シンプルになったロータリー財団補助金の手続き、My Rotaryの改善に加え、全クラブにとって不可欠なツール「ロータリークラブ・セントラル」が再構築されて、より効果的でスピードが速くなり、使いやすく、スマホでも見やすくなります。

これらは、ロータリーの貴重なリソースの重要な活用であると言えます。こんな風におっしゃいました。今後はどう考えどう行動すればいいのか？

2015年の10月の理事会はこんなことを決定しました。

ロータリーは時代に追いついていかなければならない。ロータリーは時代に適応しなければならぬ。

ロータリーは将来への備えができていなければならぬ。

最近では、ロータリーは奉仕団体、ボランティア団体とよく言われていました。人道奉仕団体として奉仕という部分が大変重きを置いていました。もちろん奉仕活動は大切なことであります。

が、事業、専門職業のリーダーからなる団体である、その人たちが奉仕活動を行っている、ですからこの左側の丸が大きくなったとお考えいただければありがたいと思ひます。

やはり私たちは、事業家であり、専門職であり、そして地域のリーダーでありますから、この人々を大切にしなければならぬ。その人々による団体ですよ、そんなことが、約2年前の理事会で決められたわけでありま。

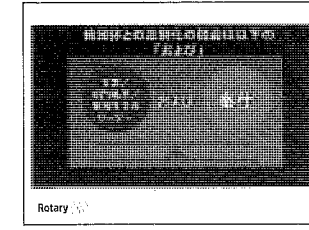
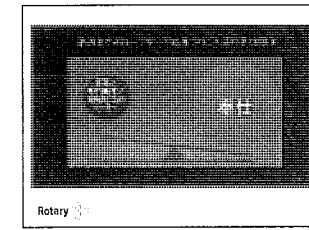
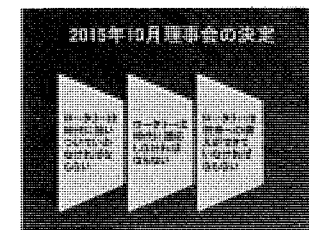
今後は、どう考えどう行動すればいいのか？

柔軟性、柔軟性とよく申しますが、この解釈はクラブにおける責任が大きくなった、クラブに任せられる内容が増えました。クラブで考えなければいけない、クラブで行動しなければいけない。このように責任が大きくなったといわれます。

それはクラブを今後どうしていくのか、前向きに考える機会が与えられたといっていると思います。そしてクラブに様々な選択肢が与えられました。

また、クラブの裁量権、クラブの自治権、クラブの自主性、こういったことが強化されました。

また、クラブを活性化するというチャンスではないか、今までも国際ロータリーはあしなさい、こうしなさいということほとんど言っていないわけで、こうすることが望ま



しいとか、ぜひこうしてみたらいかがですか、という提案はありました。

それが特に日本人の奥ゆかしさといえますか、おそらくそれを聞かなければいけないんだらうなという、控えめな発想で、いろいろ取り組んできましたが、クラブを活性化するのは、皆さん方ご自身なのです。皆さん方のご自身のクラブなのです。

こういうチャンスが与えられた、そして皆さん方のクラブの歴史、伝統を改めて考えていただきたい。そしてクラブの方向性をもう一度考えていただきたい、それを考えるチャンスが与えられました。

人頭分担金が、4ドル上がりました。マイロータリーから5ヶ年の財務見通しというページがあります。非常にわかりやすく書かれてありますので、ぜひご覧ください。決して根拠なく値上げしたのでありません。RIは予算をしっかり組んで動いています。安定した予算が必要です。もちろん積み立てや、余剰金が必要です。余らせて余分に使おうなどということは誰も考えていないわけでありまして、WEBサイトの活用により、世界中のクラブの情報が瞬時にRI本部に入り、またRI本部の情報が、瞬時に世界中のクラブに届きます。

ぜひこの4ドル値上げの根拠をインターネットから引き出して、マイロータリーから引き出して、ご覧いただきたいと思います。

入会金は徴収してはいけないのでしょうか？

2016年規定審議会の現場では取ってはいけないということに決まりました。その後、やはりそうではないよということで、ジョン・ヒューコ事務総長から、皆様方のクラブにもメールがあったと思います。

入会金がクラブ運営費に組み込まれているクラブもあります。年間おそらく何人くらいの入会者があるだろうな、それによってクラブ財政の予算化することができる。ですから徴収してもいいのです。

入会金はもらわなければいけません、クラブ財政からすれば、年会費を上げなければいけない、そんなことも皆さん方がお考えいただかないといけません。

限られた資金の中でクラブ運営を考えるのか。バランスのよいクラブ運営を考えましょう。

入会金が必要ななら、もちろん徴収していただきたい、下げても結構、上げて結構、入会金はいらぬところもあるかもしれない。それは皆さん方のクラブでお決めいただきたい、こういったことを切り口として、経費の部分でも様々なことを考え直すことが大切かもしれません。

規定審議会というのは、世界中530数地区の代表者が集まって考えるわけですが、お国柄とか、いろいろ違う事情があります。そんな中で皆様方ご自身のクラブはどうするのか、どのように考えていくのか、そんなことを考える非常にいいチャンスができたと思っていただければいいと思います。

皆さん方はあまり関心がないかもしれませんが、RI職員は、530人がエバンストンにいます。そしてその他の職員

250人が世界中にある事務局にいます。

インドが最大で、事務処理を多くこなしています。日本、ヨーロッパ・アフリカ、南アジア、韓国、南太平洋・フィリピン、ブラジル、南アメリカ、グレートブリテン・アイルランド。

こういう国々をカバーする事務局があります。RIの職員は大変、真剣に一生懸命働いています。

その人たちも私たちと同じ、ロータリーのことを愛して真剣にロータリーと取り組んでいるということも少し、頭の中に入れておいていただければいいと思います。

私たちはこれからRIに向けてどうするのか？

3年に1回規定審議会は開かれますから、この機会を利用してどんどん皆様方のお考えを発信していただきたい、決まったことに対して、それは違う、ああだこうだではなく、その前に皆さん方のご意見をぜひ国際ロータリーに向けて、あるいは世界中のロータリーに向けて発信していただきたい、そのためには10月の決議審議会というのがあります。もっと身近に考えることができます。ぜひ皆様方、いろんな意見を発信していただきたい。

そして2016年の規定審議会では34地区中、16地区が提案しました。その前は15地区でありました。2016年に提案された立法案のうち、制定案は17件、決議案は9件、わずかでありましたが、増えて参りました。

この26件の立法案の提案というのは世界中で14.4%です。日本の地区は34地区でありますから530地区の中の6%でしかありませんのに14.4%ですから相当高い確率で提案されております。それでもまだ足りません。もっと皆様方のお考えを提案してもらいたいと思います。

皆様方の地区には、規定審議会を検討する委員会がありますでしょうか。そして毎年の決議審議会への決議案の提出することができるのでしょうか？3年間の代表議員をサポートするバックアップ体制ができていますでしょうか？そんなことをお考えいただいて、そして1件でも多くの皆様方のお考えを国際ロータリーに届けていただきたい。

クラブ例会頻度と出席に関する規定をクラブ細則で定める。

ただし、最低1ヶ月に2回は開催しなければならない。ジョン・ブラウント元RI理事がこんな発言をしています。

このジョン・ブラウントさんは、この発言の前に、南アメリカのある代表議員が、うちの地区は夏季休暇の間は2か月くらいバカンスで例会なんかしないんだ、それでは年間1回でもいいのかという話が出ました。

ジョン・ブラウントは大変危機感を持ちまして、そんなこと言わないで、せいぜい1か月に2回は開催してほしいということで、採択されたわけでありまして、1か月に2回でもいいよ、であります。1か月に2回しかだめだというわけではありません。うちのクラブは毎週やるんだ、そんなこと言ったら1週間に2回やるよ、それでもいいわけがあります。

皆さん方のご自由にお決めいただければいい、毎週、仲間の顔を見るのも大事ではないですか。ぜひ皆さん方が安易な方向に流れないように、そして1か月に4回仲間と会

えたそのチャンスが、2回だと半分減ってしまうわけです。ぜひよくお考えいただきたい、1か月2回は開催しなければいけない、2回しか開催してはいけないではないのです。クラブでよくお考えいただきたいと思います。

会員の資格

以前は会員の資格は裁量権があったり、いろいろとルールがありました。今回は、善良で、高潔性があり、リーダーシップを持ち、良い評判を受けた奉仕の意欲のある成人とする。

ということで、非常に抽象的なことになりましたが、この抽象的な表現の中で、やはり中核的価値観である「親睦」、「高潔性」、「多様性」、「奉仕」、「リーダーシップ」を持っている会員で構成する必要があることになったのです。

ただ裁量権がある人ではなくて、この中核的価値観をしっかりと理解して、そして価値観を持っている会員で構成することが大切である。実際は、以前より厳しい基準になっているかもしれません。

これは426対85という80.2%くらいの代表議員が賛成しました。「親睦」、「高潔性」、「多様性」、「奉仕」、「リーダーシップ」このようなことを持ち合わせた人を会員にぜひしてくださいということでもあります。

私たちは、新会員をロータリーの奉仕活動に引き入れ、その結果クラブがより魅力的で活力あふれるそんなクラブになるわけです。

そして「四つのテスト」を誠実に履行することに導いていかねばなりません。

112年前にポール・ハリスがロータリーを創立した理由は、今日のロータリーにとっても、今なお大切な意味を持っています。それは、価値観を共有する人々を見出すことです。

つまり、誠実で多様性に富み、寛容で友情にあふれ、平和の大切さを分かち合える人たちです。

新しいアプローチを取り入れよう

「入会してよかった」と思われるクラブとなるには、会員のニーズをしっかりと把握し、その期待に応えることが重要です。

地域に貢献していると実感でき、仲間との友情を育むことのできるクラブとなるには、どうすればよいでしょうか。これにはいろいろ新しいアプローチを取り入れる必要があるかも知れません。

会員増強のための評価ツール、まずはクラブの現状認識、現状評価から始めていただきたいと思います。そしてロータリーに参加する様々な方法を紹介し、そして奉仕と友情の輪を広げていただきたい、まずは元気なクラブづくり、クラブの現状評価を行い、クラブの強みと問題点を確認することから始めましょう。

地域社会を反映した多様な会員がいるでしょうか。クラブの会員増強目標を達成できていますか？入会見込者にとって魅力となるクラブの個性は何でしょうか？今一度皆さん方でお考えいただきたいと思います。

会員の積極的な参加を促す

クラブの会員の積極的な参加は必要です。積極的な参加を促すには、クラブやロータリーへの関心を持ち続けてもらうことが大切です。さまざまな方法で会員の関心レベルを高めましょう。

クラブのプロジェクトや活動への継続的な参加を奨励する。クラブでリーダー的な役割を担ってもらおう。毎月、毎週Eメールで最新情報を送る。会員満足度アンケートを使って会員からの素直な意見を皆さん方でお考えいただきたい。

新しい会員を探す

多くの場合、入会の理由となっているのは「地域社会への奉仕」と「親睦・友情」です。仲間とともによりよい地域社会づくりに貢献できるのがロータリークラブです。

例会が大切だということは申しましたが、例会出席は強制的な意味合いを持ちます。毎週仲間の顔を見て、仲間の安否を気遣います。そして仲間から異業種の知恵を得ます。またそのうちに、その中に皆さん方ご自身の持てる知恵を友人に仲間提供することも等しく大切なことでもあります。

ロータリークラブというものは、いわば電線の通った電線のようなものであって、電線というものは、電気が通ったり通らなかつたりするようでは活きた電線とはいえないのです。

出席率の高い会員こそロータリークラブの大きな財産なのであります。

「ロータリーは傍観者の存在を許さない」

ロータリーは傍観者の存在を許さないという厳しい言葉があります。つまり、全員で参加しよう、力を出し合って行動しようということなのです。

そしてロータリアンの、「ロータリーの小さな義務の積み重ねがロータリーの輪を完全に均整のとれたものにします」というように言われています。

皆様は、ロータリーから多くのことを学んでこられたと思います。クラブで多くの先輩から人生について、ロータリーについて学ばれたことと思います。ロータリークラブは、人と人のつながりの中に存在します。

そんなことを考える中で、私たちは今、新しいパートナーを探す必要があります。

それには、自らの扉を開け、他の組織とコラボレーションの関係を深めて、多くの人たちと達成感を分かち合えることが大切です。そして私たちロータリアンが発揮すべきリーダーシップを持ち続ける必要があります。

かつて、ポール・ハリスが、心を許し、お互いに成長したいと願って作られたロータリーの心は永久に不滅です。昔ジャイアンツの監督が、ジャイアンツは永久に不滅ですといいましたが、ロータリーも永久に不滅であります。

ロータリーの発展のためには、会員増強は大切です、これは申すまでもありません。しかし会員維持これも大変大切な要件です。かつてロン・パートン国際ロータリー会長

が、毎年16万人くらいの新しい会員が、ロータリーの門をたたいて入ってくる、しかしそれと同じくらいの人が裏口から出て行ってしまふ。そんな嘆きの言葉をおっしゃっていました。

新しい会員に門戸を広げると同時に、既にロータリーに席を置く仲間を大切にしましょう。皆さん方の仲間を大切にしてください。

#### 奉仕の原点は

「どこかで誰かのお役にたてるなら、自分自身が恵まれていることのお裾分けをしよう…。私にできることをしよう。」「いい働きができますように」これが奉仕の心なのです。

ロータリークラブは、ロータリアンに奉仕の心を育てる使命をもった団体なのです。その奉仕の心が育ってその結果として様々な行動に表れてまいります。ロータリー財団然り、米山奨学会もしかり、そして皆さん方の地域のいろんな活動もしかりです。

ロータリークラブで、奉仕の心を育て、そしてそれを行動に移す、これがロータリーの素晴らしい使命だと思います。

最後になりますが、これを忘れないでいただきたい、四つのテストであります。これは私たちロータリアンの心の中に必ず、しっかりと根差した心であります。皆さん方が、例えば車に乗っていられるときとか、一人で何か考え事をされているとき、頭の中でこの歌を歌いながら、四つのテ

ストを実践していただきたい、そんな風に思います。

雑駁なお話で申し訳ありませんが、質疑応答は、時間の関係で、お断りいたしますので、後でいただければ、しかるべき回答者を見つけてお話いたしますので、よろしくお願ひいたします。

どうもありがとうございました。

#### 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実かどうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるかどうか

Rotary

